

## 第2回 神野公園再整備検討委員会 議事要旨

日時：令和5年5月23日(火) 13時30分～15時30分

場所：佐賀市役所 庁議室

委員：後藤隆太郎、木下博幸、喜多浩人、上赤博文、かくもとしほ、  
富田紘次、納見浩司、馬場久雄、山口美恵（9名）（敬称略）

アドバイザー：佐賀市情報発信強化アドバイザー 博報堂ケトル 井手康喬

### 議 事

#### ■神野公園再整備についての委員コメント

##### ●前回（第1回）の振り返り

○とんぼ池を縮小して、新しいとんぼ池をつくるという意見は縮小も含め反対である。

##### ●目標（目指すゴール）の設定・共有化

(井手)目標がすごく大事で、例えば山頂にあれがあるからみんなで登ろうみたいな、そういうイメージできるものが最初にあれば、足並みも揃うし、最短距離で行ける。

井手氏作成資料<神野公園再整備の目的について>により説明

再整備をすることが目的ではなく、それが手段になると良い。再整備は何のためにするのかと、それにどういう意義があるのかという意見をいただき、色々な発見があると、この検討委員会はすごく良い舞台になる。

○話の内容は、非常にわかりやすいが、数字で決める目標設定にするのか、言葉に設定するのかでも、大きく違う。前は、こんな公園になったらいいなというくらいの話だった。

(井手)新しくできる公園が、市民の間でも、また市を越えて全国的な話題になるくらい新しいものを備えた公園になるというのを目標にしたい。それがひいては、佐賀市民の新しい自信になり、「佐賀市ってすごいね」といったバズるきっかけになってもらうのが1番良い。

○やはり数字も言葉も両方大事だ。数字というのはみんなに共通して一つの目標を掲げるのにとっても大事になるが、その言葉か、数字もただ設定して数字だけを追いかけると意味がない。その数字からどういうことを読み取るのか、その数字に表れないものをどう汲み取るか、言葉としてのみんなで共通するところがある数字だ。

○「言葉でつくる目標」で、「新しいことにチャレンジして新しい佐賀市の象徴とする」という言葉は非常に良い。言葉だけではなく数字だと例えばSNSのバズリや、何か特徴的なものを1つ2つ挙げも良い。

○こども遊園地は人が多いので、その北側にこどもが喜ぶ動物や遊具など遊びに来たいと思わせる場所にすれば十分だ。また、子どもたちが「おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に来たい」と思う公園にするために進めたい。

○言葉の宣伝は大事である。夏場も水遊び場ができると子どもたちも喜んでくれる。この検討委員会で一度、神野公園の現場を見て回り、どこをどのようにするかを検討も必要だ。

○神野公園に来る人たち、一人一人違うものを目当てに来る。我々も、違う価値感を持ちながら、同じ目標の話はできる。

○次の段階として、新たな施設の導入や今ある施設を省いていくなど、この公園をどのように活用し、維持管理していくかが重要だ。

(井手)今後の議論のときに「とんぼ池」を今のまま維持するのか、新しくつくるのかと迷うときに、どちらがこの目標に近いのかという、基準になる。

来園者など数字をこれ以上、増やすといった目標は、何か数字を追うようなことになり本末転倒で良くない目標のつくり方だ。それよりも、来た人の満足、そのこどもたちが色々な体験ができて楽しかったことは、指標にあるべき。

### ●委員からの報告・提案

納見：資料1「神野公園こども遊園地におけるエアリアルアドベンチャーご提案書」(説明)

○こども遊園地については、佐賀市観光協会がハウツに営業を委託しており、特段遊戯施設として危険でない限りは、ハウツの判断でやっている。

喜多：資料2「神野公園再整備にあたっての考察」(説明)

○こども遊園地が旧神野のお茶園の敷地にかかっていることは非常に大きな問題で、それに関連し、水がどこに流れているのかを調べる必要があった。その中で、とんぼ池に流れ込む水量が睡蓮池をつくったときよりはるかに減っており、環境が変わった。

○「新とんぼ池」は、今どうなっているか、市の考えを聞きたい。

○「新とんぼ池」は私の造語で、前の議論の中で現とんぼ池は縮小して「新とんぼ池」をつくるのかどうかと発言したのは、外来種の駆除に苦慮しているため、縮小して、管理がしやすいようにすることで、「新とんぼ池」で新しく別の環境学習ができる施設をつくったほうが良い。

徳田先生が書いているように、ここが今のとんぼ池のようにはならない。

○これは個人の1つの提案であり、ここで何か決まることではない。

○とんぼ池は、実はその横を流れている多布施川と一体となり、価値がある。「新とんぼ池」の話が出ているが、生き物の移植は、簡単ではない。

○確かに移植して、定着しないケースが多い。ただ定着しているときは、水質が変わらないところで定着が残る可能性は高い。

○「新とんぼ池」は、今のとんぼ池を移す話ではなく、十分認識した上で議論していく必要がある。

○実際にここに、とんぼ池を移すという話なら、私だけでなく生き物関係の色々な専門家に意見を聞いた方が良い。

○そもそも人間がつくった環境なら、人の利用のために多少はとんぼにも、何か改変せざるを得ない事態もあるかも。

○桜などの樹木も常に植え替えていかないといけない。そこは徳田先生も今日は欠席なので、今後意見を聞ければ良い。

## ●民間活用手法の紹介

○神野公園も立派で大きな公園の部類ではあるが、紹介された公園は、もう1ランク大きなエリアを有する面積でかなり大きい。今、色々な公園で Park-PFI 等をされており、神野公園ぐらいのスケールでもあり得るかもしれないということなのか。

## ●7つの体験について

(井手)7つの体験の定義は、書いているとおり。今の時点でこの7つで良いと考えているが、委員の中で7つの項目について、要る要らないなど意見があれば出してほしい。

遊具の話でそれが遊びや教育、運動につながるという視点に結びつく。PFIの話は、やはり「食」で、今までにない新しいことに常に取り組み佐賀市という意味合いにおいてもあったほうが良い。

○ハウツ提案のアドベンチャーの話も、今、こども遊園地で遊べる年代のこどもはキッズコースが多く、中学生から大人まで体験できるのは良い。また、大人がこども遊園地以外で楽しめるのは、やはり飲食だ。特に高校生、大学生になると、今SNSが流行っており、バズる食べ物や映えるパフェというワードがすごく飛び交っているので、飲食店は充実をさせてもらいたい。また、佐賀市や佐賀県ならではの特産品を使ったスイーツなどに力を入れていただきたい。

○週末だけでも、神野公園全体にキッチンカーなどが出店し、テイクアウトして、公園周りを散歩するだけでも非常に良い体験になる。

○犬などと一緒に出かけたいので、人間以外でも楽しめる公園になると良い。特に、排せつ物の問題があるので、「排せつ物のポスト」を設置するなど犬などの動物にも優しい公園になれば良い。動物や人を大事に思うことは、教育や文化にも繋がる。

(井手)「季節」をつくった意図は、季節性ということで、同じものがずっとあるのではなく、時期や時間が経って入れ替わっていくような要素を考えた。何かニュース性とか、トレンドとかという意味合いで入れた。

○「さいじ」も催すことの「催事」なのか、「歳時」もあるかもしれない。

(井手)全部日本語で揃えたいが、「イベント」にすると体験としてイメージしやすいという気がする。しかし、イベント的なものは「遊び」にも入る。

○言葉的な話で、「教育」というのが、教育の体験、これは何か言葉の語呂として、学ぶという意味の教育なのか。環境教育なら、自然のほうかもしれない。

(井手)「教育」より確かに「学び」のほうが体験として正しい言葉である。「自然・環境」との違いは、SDGsのような要素も今の時代につくる公園には必要だ。

○「とんぼ池」は、何かすごい大きな体験のキーワードになるくらい皆が議論している感じがする。

(井手)「とんぼ池」は、カラーコンテンツで、独自性というところで象徴的である。

井手：井手氏持込み資料（修正版）（説明）

○自然やとんぼ池や神野のお茶屋という歴史的な庭園など、割とハートフルなものや、歴史的なものがこの公園を構成している現在の要素として多い。

○多様な来園者を受入れることが一つの目標であり、おじいさんと孫、人と人や人と動物のつながりのような、他者とコネクトするような公園にしたい。

○神野公園には、色々な碑が建っており、「この人はこういう人だった」と訪れる人に紹介し、何か組み

込んでいけたら楽しい。

○この機会に碑を多少整理しても良い。

○紹介だが、SATOMORIというNPOで、とんぼ池のホームページを立ち上げており、将来的には佐賀市でつくってもらい、「とんぼ池」の情報発信を考えてほしい。

(井手)次回か次々回あたりで、7つの体験のそれぞれ何を象徴とするかを議論し、7つシンボルをつくるような気持ちで進めていくと、すごく有意義になる。